

平成24年度 第3回CCC芸術系グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年8月27日（月） 10:00～12:30

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：西垣委員，有馬委員，久原委員，小川委員（ネット），井澤委員（ネット）
（事務局）井端事務局長，森下主幹，松本職員，

IV. 議事概要

1. 学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

芸術系教員の教育力の（3）教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題を検討する。

（1）FD活動

①は、心理学の①を参考にし、文言を整える。

②は、学生が主体的になって検討することが目的である。

心理学の④を参考にする。

グループ学習、対話型授業、ワークショップなどの指導法は方法論であって、それ以前に、学生に主体的に考えさせ、多面的な見方を持たせるコーチング能力を身につけさせるためのFD活動をする。具体的な方法論も文面に含める。

③は、外部の専門家とのコーディネート能力が関係する。

化学のFDの⑤、心理学の（2）大学としての課題の③などを参考にする。

社会学のFDの③、建築学のFDの②、経営工学のFDの③、被服学のFDの②など、外部の研究会に積極的に参加し、連携を図れるようにする。

関連他分野の教員や専門家間で学び合う場を作ることが必要である。

④は、学修支援サイト、eラーニングに関することである。

施設を充実させる必要があるため、（2）大学としての課題に含める。

⑤は、地域社会との連携が関係するので、大学としての課題に含める。

被災地、病院への作品の提供、パブリックアートなどが関係する。

⑥は、ICTを用いた作品公開と外部評価に関係することは、政治学の⑤を参考にする。

（2）大学としての課題

政治学の①から④を参考にする。

②の教材コンテンツの後に、作品のポートフォリオを加える。

③の研究者・専門家の後に、地域社会を加える。

しかし、地域社会との連携に関する点は、別項目として分けるほうがよい。

コンソーシアムの観点からすると、専門家と地域社会は分けて二本立てした方がわかりやすい。

地域社会との連携は芸術系の特徴であるので、独立した項目としたほうがよい。

全体の表記の見直し。

「など」の記述の見直し。

FDに関して、「必要である」という表記に合わせる。

2. 今後のスケジュールについて

(1) 今後の検討課題

今回は、ガバナンスに理解していただくために、美術・デザイン教育の到達目標を掲げた時の背景と各到達目標の解説を物語風に作成する。

・芸術学教育における学士力の考察について：A4サイズ2／3ページ程度。

・到達目標1～3：5～6行程度。

なぜ学生に目標値を持たせるのか、必要性を解説する。

なお、到達目標における「視覚芸術表現」という言葉は、「造形表現」に統一する。

(2) 次回の委員会

日時：9月26日(水)15:00～

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

以上